

ホームページのご案内

当社ホームページにて事業内容やIR情報などを掲載しております。ぜひご覧ください。



スマートフォンでも
アクセスできます。



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領株主
確定日 3月31日

中間配当金受領株主
確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

上場証券取引所
東京証券取引所
スタンダード市場
福岡証券取引所

単元株式数 100株

公告の方法 電子公告により、当社のホームページ
《<https://www.nanyo.co.jp/>》に
掲載いたします。

(事故その他やむを得ない事由によって電子公告による
公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載
いたします。)

株主名簿管理人・特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

(連絡先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
TEL 0120-232-711(通話料無料)

(郵送先) 〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

※証券会社等の口座に記録された株式の各種手続きにつ
きましては、一部を除き原則、口座を開設されている口座管理
機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を
開設されている証券会社等にお問い合わせください。

※特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつつま
しは、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

<お問い合わせ先> 株式会社 南陽 人事総務部


〒812-8556 福岡市博多区博多駅前三丁目19番8号 TEL 092-472-7331(代) FAX 092-452-2135

HPアドレス《<https://www.nanyo.co.jp/>》

UD FONT by MORISAWA 見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しております。



この印刷物は環境にやさしい
FSC® 認証紙と植物油インキを
使用しております。

 株式会社 南陽
証券コード：7417

第72期 報告書

2025年4月1日より2026年3月31日まで

NANYO CORPORATION

CONTENTS

P.01	経営の理念
P.02	ごあいさつ
P.03	グループ概要
P.04	事業系統図
P.05-06	NETWORK
P.07	連結財務ハイライト
P.08	セグメント別営業概況・業績推移
P.09	連結売上高構成比
P.10	今後の課題・中期経営計画
P.11	単体財務ハイライト
P.12-13	NANYO NOW
P.14	会社概要・株式の状況

経営の理念 >>>

経営の理念 社会への貢献 働き甲斐のある 職場作り

当社は、経営の理念として
「社会への貢献」と
「働き甲斐のある職場作り」を
掲げております。

「社会への貢献」とは、事業を通じてお取引先を始めとする
ステークホルダーの皆様のご要望にお応えすることであり、
「働き甲斐のある職場作り」とは、皆様に一層お役に立てるように
社員一人ひとりが日々成長できる職場を作ることです。

ごあいさつ >>>

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに
第72期の事業の概況をお届けするにあたり、ひとことご挨拶
申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の
改善を背景として、個人消費を中心に緩やかな回復基調が
継続しました。その一方で、米国の関税政策や日中関係の
悪化、中東情勢の緊迫化、深刻化する人手不足等による影響が
景気の下押し要因となっており、依然として先行きは不透明
な状況にあります。

このような状況の中、当社グループにおきましては、高粗利
商品の拡販や提案営業の強化に取り組むとともに、新規顧客
の開拓や生産部品・消耗部品の拡販にも注力した結果、売上
高は36,815百万円(前期比0.8%増)、営業利益は2,809百
万円(前期比1.5%減)、経常利益は3,050百万円(前期比
2.0%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は2,356百万
円(前期比15.6%増)となりました。

次期のわが国経済は、引き続き、個人消費が堅調に推移する
とともに、安定した政権運営のもと各種経済対策が進展する
ことにより、設備投資の回復や生産活動の持ち直しが期待
されます。一方で、海外経済の減速懸念、地政学的リスクの
高まり、原材料価格やエネルギー価格の変動、為替相場の
動向に加え、物価高の長期化による消費マインドへの影響や
人手不足の深刻化等も懸念されることから、依然として
先行きは不透明な状況が予想されます。

このような状況の中、当社グループにおきましては、社会
インフラの補修に関連する新商品の拡販を進めるとともに、
質の高いサービスを安定的に提供できる体制の構築に努めて
まいります。また、今後投資が期待される分野のニーズを
的確に捉え、提案営業を一層強化するとともに、製造子会社
とのシナジーを最大限に発揮し、当社グループ製品の拡販
にも注力してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を
賜りますようお願い申し上げます。

2026年6月

代表取締役社長

篠崎 学



グループ概要 >>>>

1950年、創業者が炭鉱事業を創業して以来、商品、市場、事業の多角化を進めてまいりました結果、右のような企業集団が形成されました。

まず1950年代のエネルギー革命の中で炭鉱事業のノウハウを活かして砕石事業を開始いたしました。この砕石事業に利用する各種機器を砕石機械メーカーや他の砕石会社に販売するために設立されたのが機械商社の南陽です。以後、建設機械事業、産業機器事業がそれぞれ成長する過程で市場の変化に対応して関係会社を設立してまいりました。

建設機械事業では、建設機械の購入ユーザーがレンタルへの利用に変化する潮流を早期に捉え、1989年より建機レンタル市場に参入し、現在では建設機械事業の中核と

なるまで成長いたしました。また、事業の拡大に向けて、産業用車輛の販売を目的とした関係会社を設立するとともに、社会インフラの老朽化対策に関連する分野を強化してまいりました。

産業機器事業では、IT産業を中心とした国際分業の流れに対応し、ビジネスチャンスを拡大する目的で、海外の関係会社を設立するとともに、国内事業規模の維持・拡大をはかるため、精密小型モーター類を取り扱う販売会社、産業機器等の製造・販売を行うメーカーを買収いたしました。

今後も国内は元より、中国、東南アジアを始めとした海外市場も視野に入れながら、より効率的な経営資源の配分を行い、投資収益率と人的生産性の向上に努めてまいります。

事業系統図 >>>>



国内外得意先

NETWORK >>>

- 産機事業本部
- 建機事業本部
- 関係会社

中国

南中央国際貿易(上海)有限公司

台湾

建南和股份有限公司

沖縄支店

本社

関西支店

信州支店

(株)エイ・エス・エイ・ピー

仙台営業所

北関東支店

東京支店

共栄通信工業(株)

アプリオリ(株)

九州地域

本社

(株)浜村

北九州支店

(株)共立砕石所

福岡支店

特殊機械部

(株)南陽レンテック

(株)AQUAPASS

(株)戸高製作所

大分支店

南九州支店

(株)南陽重車輛

鹿児島支店

宮崎営業所

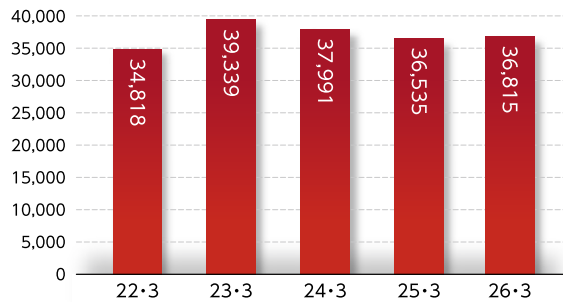
マレーシア・ベトナム

NANYO ENGINEERING VIETNAM CO., LTD.

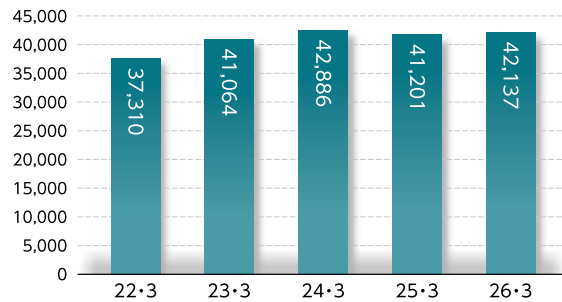
NANYO ENGINEERING (MALAYSIA) SDN.BHD.

連結財務ハイライト

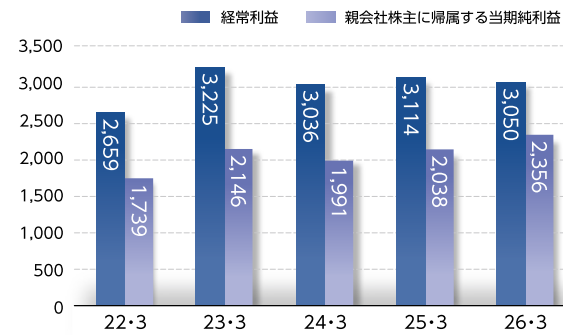
■売上高 (単位:百万円)



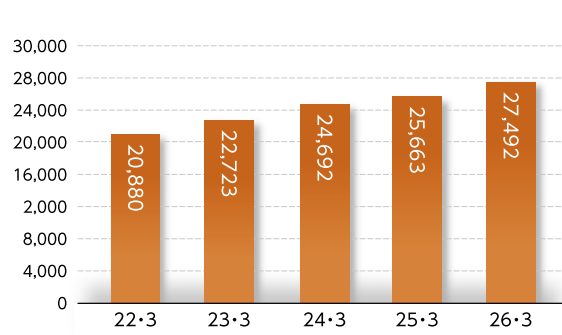
■総資産 (単位:百万円)



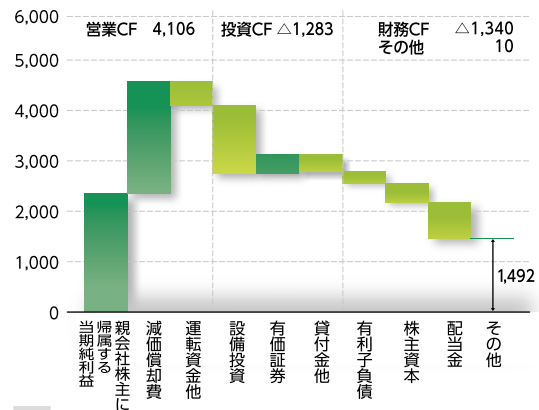
■経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



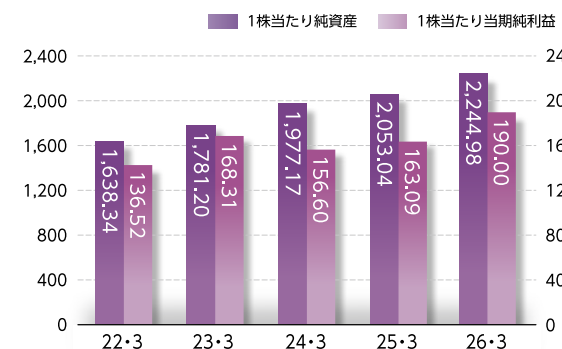
■純資産 (単位:百万円)



■キャッシュ・フロー (単位:百万円)



■1株当たり純資産・1株当たり当期純利益 (単位:円)



※2024年4月1日付の株式分割を踏まえ算定しております。

セグメント別営業概況・業績推移

建設機械事業

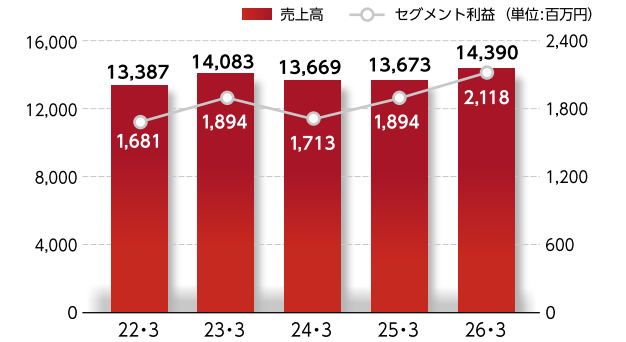
購買意欲低迷も、レンタル機械の稼働率が向上し、増収増益

- 販売部門では、高粗利商品の販売強化と価格競争力のある商品を取りそろえ、顧客ニーズに合わせた提案営業を強化
- レンタル部門では好調な民間企業の需要取り込みに注力

売上高 **14,390**百万円 前期比**5.2%**増 ↑

セグメント利益 **2,118**百万円 前期比**11.8%**増 ↑

■売上高・セグメント利益<建設機械事業>



産業機器事業

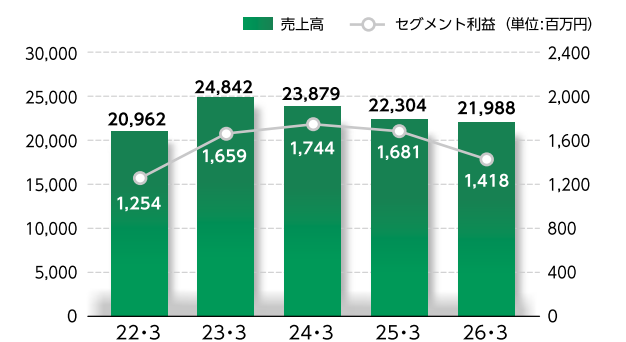
設備投資抑制の動きや工場稼働率低迷の影響を受け、減収減益

- 新規顧客の開拓や生産部品・消耗部品の拡販。製造子会社においては設備投資に積極的な取引先の受注獲得に注力

売上高 **21,988**百万円 前期比**1.4%**減 ↓

セグメント利益 **1,418**百万円 前期比**15.7%**減 ↓

■売上高・セグメント利益<産業機器事業>



砕石事業

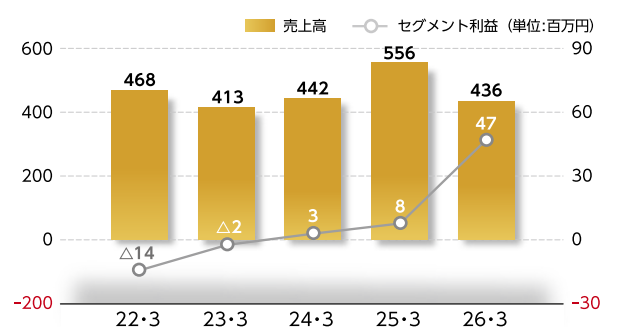
全体の取引量が減少する中、製造コストの価格転嫁が進み、減収増益

- 営業活動の強化による地域周辺工事の取り込みと販売単価の交渉、輸送費、燃料費等のコスト削減に注力

売上高 **436**百万円 前期比**21.6%**減 ↓

セグメント利益 **47**百万円 前期比**472.5%**増 ↑

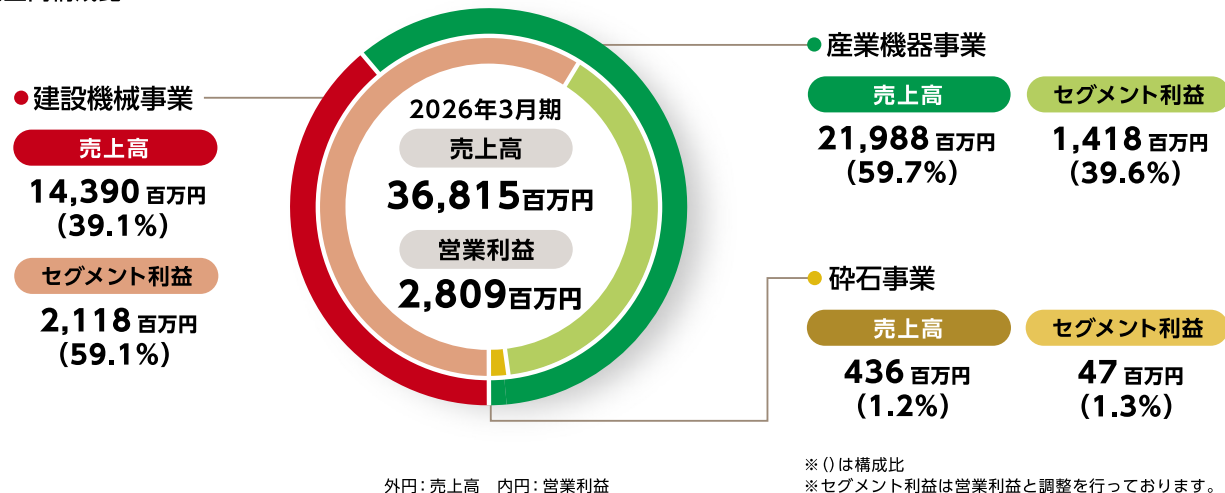
■売上高・セグメント利益<砕石事業>



連結売上高構成比 >>>>

建設機械事業、産業機器事業をメインとした3つのセグメントで事業を展開

■ 売上高構成比



今後の課題 >>>>

建設機械事業におきましては、販売部門においては、社会インフラの補修に関連する新商品の拡販に取り組むとともに、継続して新市場の開拓にも努めてまいります。また、レンタル部門においては、営業エリアの再編による効率化をはかり、質の高いサービスが提供できる体制の構築に注力してまいります。

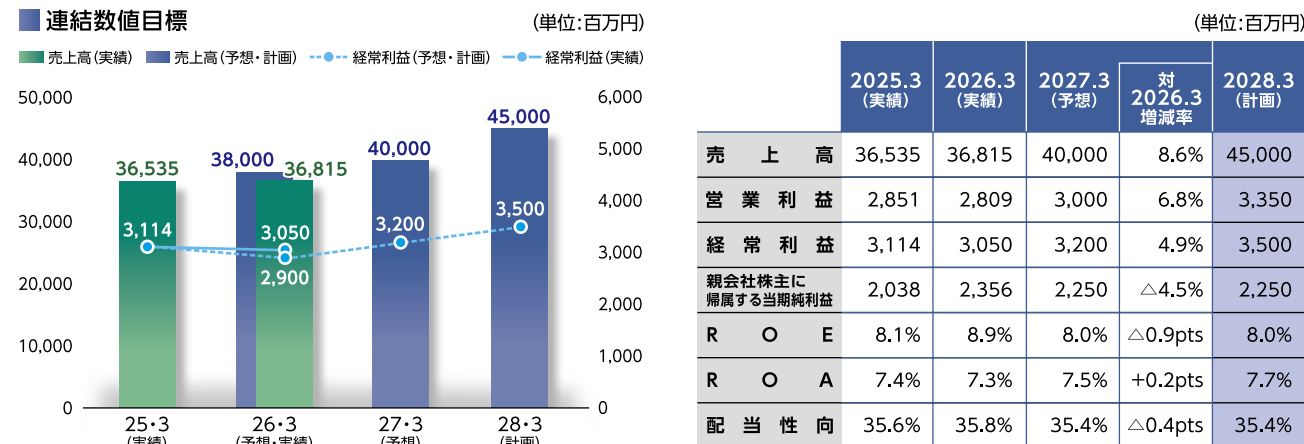
産業機器事業におきましては、投資が期待される分野のニーズを的確に捉え、提案営業の強化に努めるとともに、製造子会社とのシナジーを追求し、当社グループ製品の販売強化に注力してまいります。

砕石事業におきましては、継続して販売単価の交渉に努めるとともに、公共工事・民間工事の発注動向を見極め、受注獲得に向けて提案強化にも注力してまいります。

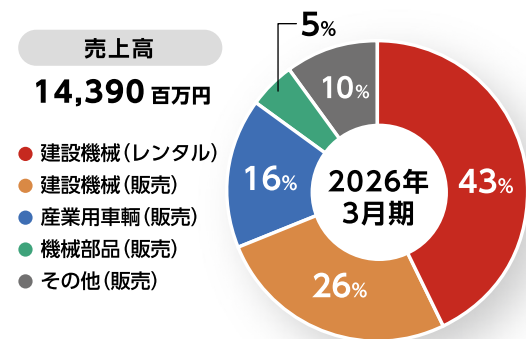
なお、次期の連結ベースの業績につきましては、設備投資の回復が期待されることから、売上高は40,000百万円(前期比8.6%増)、営業利益は3,000百万円(前期比6.8%増)、経常利益は3,200百万円(前期比4.9%増)を見込んでおります。なお、親会社株主に帰属する当期純利益は当期に発生した負ののれんが次期は見込まれないため、2,250百万円(前期比4.5%減)となる見通しであります。

中期経営計画 >>>>

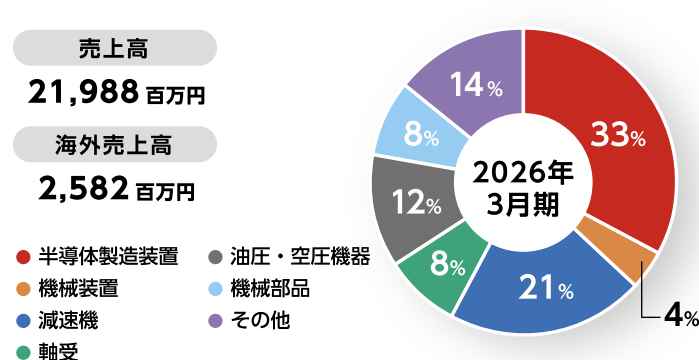
人的資本強化とサステナビリティ経営推進で事業基盤強化をはかり、成長軌道への回帰を目指す



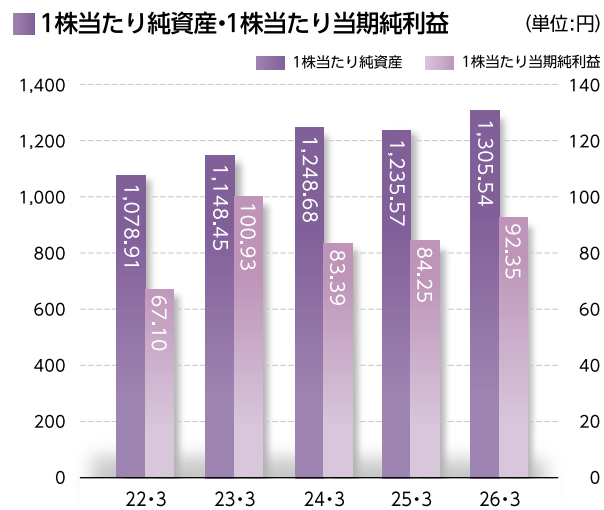
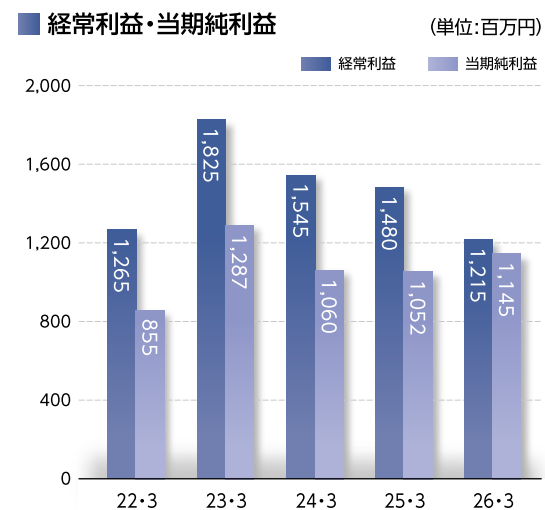
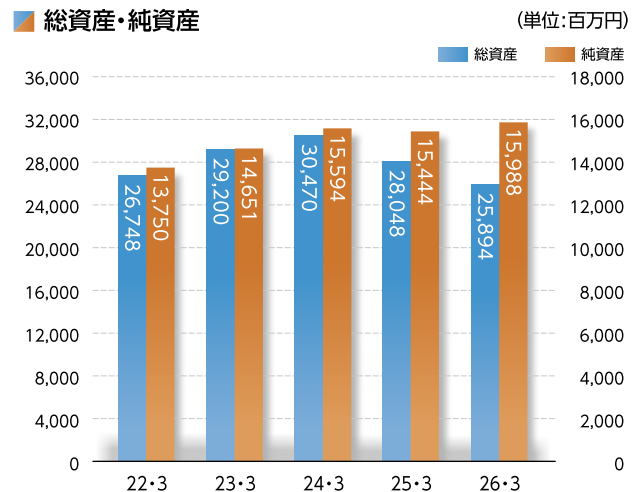
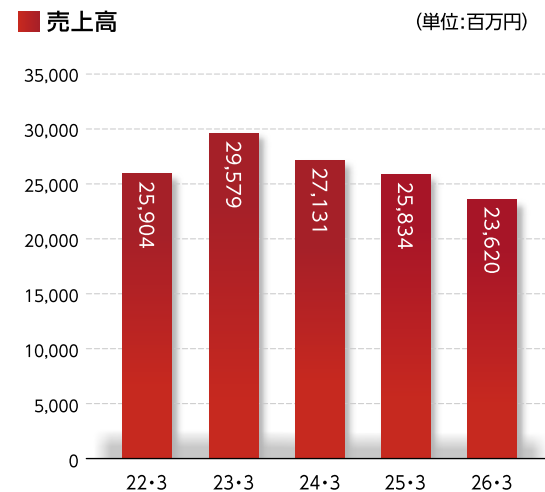
■ 商品別売上高構成比<建設機械事業>



■ 商品別売上高構成比<産業機器事業>



単体財務ハイライト



※2024年4月1日付の株式分割を踏まえ算定しております。

NANYO NOW

アプリア株式会社を子会社化

当社は、2026年3月25日付でアプリア株式会社の全株式を取得し、当社の完全子会社といたしましたので報告申し上げます。

東京都千代田区に本社を置くアプリア株式会社は、半導体製造プロセス、光ファイバー製造プロセス、基板ガラス製造プロセス等に使用される流体制御機器の販売、輸入販売に加えて、流体制御システムの製造販売を行っており、商社機能を有しつつ、開発、設計、製造からアフターサービスまで一貫して対応できるメーカーであります。

今回の株式取得で南陽グループにおける製造子会社は5社目となりました。今回の子会社化により、より一層製造分野の強化がはかれるとともに、当社の営業力と製造子会社の技術力を融合させることで、幅広い分野においてシナジーを創出できるものと考えております。

当社は、今後も引き続き、既存事業とシナジーが見込める製造分野をはじめとする多様な分野への進出を検討し、経営基盤の拡大をはかるためM&Aの積極的な活用を進めてまいります。



調印式記念撮影



千葉県のテクニカルセンター外観

下水道業界への取り組み強化

当社は、下水道業界への取り組みを一層強化するため、自社製品である下水道更生管削孔機「南陽モール」の新型機「南陽SモールCS226」を開発するとともに、ドイツの超高压洗浄ポンプ・ロボットメーカー「falch GmbH」(以下、ファルヒ社)と代理店契約を締結いたしましたのでご報告申し上げます。

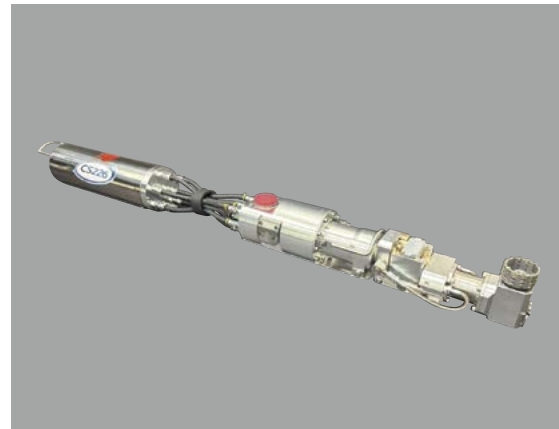
「南陽SモールCS226」は、小口径の下水道管向け製品であり、下水道管の老朽化問題を背景に、小口径の下水道管においても老朽化対策の需要が高まっていることから、お客様のご要望を受け開発いたしました。中小企業等経営強化法に基づく経営力向上設備等の認定も取得しており、お客様の事業領域の拡大やインフラの安全性向上に貢献できると考えております。

また、超高压洗浄ポンプ・ロボットにおいては、最大300Mpaの高水压で異物除去ができ、24時間の断続運転が可能な製品で、「南陽モール」と組み合わせて使用することで、下水道管メンテナンス工事のさらなる効率化や省力化に寄与できると考えております。

当社は今後とも、お客様のニーズに対応した製品の開発に取り組むとともに、取扱商品の拡充にも努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



ファルヒ社製品



南陽SモールCS226

会社名	株式会社 南陽	
証券コード	7417	
本社所在地	福岡市博多区博多駅前三丁目19番8号	
創業	1950年5月2日	
設立	1953年8月1日	
業種	産業機器の販売、建設機械の販売及びレンタル	
資本金	1,181,875,000円	
役員	代表取締役会長	武内 英一郎
	代表取締役社長	篠崎 学
	常務取締役	眞野 耕二
	取締役	南雲 一紀
	取締役	古賀 貴文
	取締役	栗田 真欣
	取締役(監査等委員)	石川 一郎
	取締役(監査等委員)	奥田 貴介
	取締役(監査等委員)	斧田 みどり
	取締役(監査等委員)	南谷 敦子
	取締役(監査等委員)	漆間 麻紀

従業員数	158名 (連結 521名)	2026年3月31日現在
関係会社	株式会社 南陽レンテック	
	株式会社 南陽重車輛	
	共栄通信工業 株式会社	
	株式会社 戸高製作所	
	株式会社 エイ・エス・エイ・パイ	
	株式会社 AQUAPASS	
	アプリオリ 株式会社	
	株式会社 浜村	
	南央国際貿易(上海) 有限公司	
	株式会社 共立砕石所	
	建南和 股份有限公司	
	NANYO ENGINEERING (MALAYSIA) SDN.BHD.	
	NANYO ENGINEERING VIETNAM CO., LTD.	

- 発行可能株式総数 38,536,000株
- 発行済株式の総数 13,230,140株
- 株主数 15,916名
- 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
武内 英一郎	538,368 株	4.39 %
株式会社西日本シティ銀行	431,400	3.52
株式会社三井住友銀行	429,000	3.50
小林 敬子	391,124	3.19
白江 やす	345,000	2.81
松本 智子	303,088	2.47
株式会社福岡銀行	297,000	2.42
三宅 貴子	289,204	2.36
長谷川 猛夫	284,888	2.32
武内 八郎	266,622	2.17

(注) 1. 当社は、自己株式983,794株を保有していますが、上記大株主からは除いております。
2. 持株比率は自己株式(983,794株)を控除して計算しております。

● 株式分布状況

